

「日本がん・リンパ浮腫理学療法学会誌」 執筆規程

令和 5 年 4 月 1 日

一般社団法人 日本がん・リンパ浮腫理学療法学会

機関誌委員会 制定

1. 論文の構成

表紙頁、要旨、本文、図表、図表の説明文で構成する。

原則として、投稿するファイルは Microsoft word で作成する。

原稿には、ページ番号、行番号を記載する。

2. 原稿の規定分量

研究論文（原著）、症例研究、システマティックレビューは、和文要旨・文献・図表を含んで、原則として刷り上がり 8 頁（400 字詰め原稿用紙 40 枚・16,000 字相当）。短報は和文要旨・文献・図表を含んで原則として刷り上がり 4 頁（400 字詰め原稿用紙 24 枚・9,600 字相当）。その他は和文要旨・文献・図表を含んで原則として刷り上がり 6 頁（400 字詰め原稿用紙 32 枚・12,800 字相当）。図表は、刷り上がり 1/4 頁大のもの 1 個を 400 字詰め原稿用紙 1 枚として換算すること。

3. 表紙頁

- 1) 論文には表紙頁をつける。
- 2) 表紙頁には、①希望する論文の種類（原著、症例研究、短報、システマティックレビュー、症例報告、実践報告、調査報告、総説、その他）、②標題、③著者名（共著者を含めて記載）、④所属名（共著者を含めて記載）、⑤責任著者連絡先（氏名、所属、職種、郵便番号・住所、電話番号・メールアドレス）を記載する。尚、著者は当該研究・執筆に寄与するところの多い人を必要最小限に記載する。審査開始後の著者の変更は原則認めない。
- 3) 全ての論文の表題には英文タイトルをつける。表題は内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語、略称は用いない。用語は本文に用いた言語とし、キーワードを含むように配慮する。

4. 要旨

- 1) 和文および英文にて、「目的」「方法」「結果」「結論」の構成で簡潔に記載する。研究論文（原著）、短報以外の記事の種類の論文においては、著者の判断で項目名を変更してもよい。
- 2) 和文は 400 字以内、英文は 250 語以内とする。
- 3) 英文要旨は、ネイティブ・スピーカーによる校閲を著者自身の責任で受ける。
- 4) 和文要旨の後に 3～5 個のキーワードをつける。キーワードは、標題および要旨より抽出し、不十分な場合は本文から補充する。国際的に広く通用する言語（英語など）または日本語で記載する。

5. 本文

- 1) 一般社団法人 日本がん・リンパ浮腫理学療法学会（以下、「本学会」という。）のホームページより、日本がん・リンパ浮腫理学療法学会誌（以下、「本誌」という。）が規定するフォーマットをダウンロードして使用する。
- 2) 余白 25mm、40 文字×30 行のレイアウトで、フォントは MS 明朝体、標準、10.5 ポイントを使用する。英数字は MS 明朝体とし、半角とする。
- 3) 文章は楷書・横書き、口語体、現代かな遣い、数字は算用数字、単位は原則として国際単位系（SI 単位）を用いる（長さ：m、質量：kg、時間：s、温度：℃、周波数：Hz など）。
- 4) 章は 1、2・・・、節は 1)、2)・・・、項は(1)、(2)・・・、以下①、②・・・とする。
- 5) 句読点は、日本文の場合は全角の「、」「。」を使用し、英文は半角の「,」「.」を使用する。

6. 図表

- 1) 図・表は本文に出てくる順に、それぞれ一連番号をつける。グラフィック表現および写真は図に含める。図の番号および表題は図の下に、表の場合は表の上につける。図・表の転載は投稿前に著者の責任で転載許可をとり、投稿時に許可書を提出すること。また、スライド図・表は投稿用に作成し直す。図表の説明（キャプション）は、図表の後に頁を新たに記す。図表の後に頁を新たに記す。
- 2) 他書（他誌）から図表等を転載する場合は、原稿の一部となるため、論文著者の責任において著作権者に許諾申請を行い、使用した図表にはその旨を記載する。また、出典を明記する。Web サイトに掲載されている著作物（写真など）についても同様に扱う。無断転載は著作権の侵害となる場合があるため注意する。以上について機関誌委員会は一切の責任を負わない。

7. 本文の構成

本文は原則以下の項目に沿って構成する。ただし、研究論文（原著）、短報以外の記事の種類の論文においては、著者の判断で項目名を変更してもよい。

① はじめに（序論、緒言）

研究の背景、臨床的意義、研究の目的、取り扱っている主題の範囲、先行研究との関連性の明示などを記述する。

② 対象および方法

用いた研究方法について第三者が追試できるように記述する。倫理的配慮も記述すること。

③ 結果（成績）

研究で得られた結果を本文および図表を用いて記述する。データは、検証、追試を行いやすいように図（グラフ）よりも表にして数値で示す方が望ましい。

④ 考察（分析）

結果の分析・評価、今後の課題などを記述する。

⑤ 結論

研究で得られた結論を 200～300 字で簡潔に記述する。

⑥ 利益相反

利益相反の有無について記述する。

⑦ 謝辞

著者資格には該当しない研究への貢献者、および助成金受給等について記載する。

⑧ 文献

引用文献のみを本文の引用順に記載する（記載方法は下記を参照）。

8. 文献

引用文献は本文の引用順に並べる。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、発行年（西暦）、巻、頁（最初-最終）の順に書き、単行本の場合は著者氏名、書名、編集者名、発行所名、発行地、発行年（西暦）、頁を記載する。文献名の省略は公の省略法（Index Medicus など）従う。引用文献の著者氏名が 3 名以上の場合は最初の 2 名を記載する。その他は、他、または *et al.* とする。「,」「.」「:」「;」は半角で記載し、その後に半角スペースを入れる。文献の記載は、下記の [例] に則って正確に記載する。

[例]

論文より引用する場合（和文誌、英文誌）

1) 才藤栄一, 園田茂, 他: リハビリテーション医療における障害 ADL 評価法に関連して FIM を中心に. リハビリテーション医学. 1994; 31: 321-325.

2) Miyata C, Tsuji T, *et al.*: Cancer functional assessment set: a new tool for functional evaluation in cancer. *Am J Phys Med Rehabil.* 2014; 93: 656-664.

単行本より引用する場合

3) 辻哲也: がんのリハビリテーションマニュアルー周術期から緩和ケアまで 第2版. 医学書院, 東京, 2021, pp. 45-52.

Web から印象する場合

5) Japan Clinical Oncology Group ホームページ ECOG の Performance Status(PS)の日本語訳. <http://www.jcog.jp/> (2018 年 2 月 27 日引用)

巻、号、ページ数などが付いていない online 文献を引用する場合 (DOI を記載)

6) Avancini A, Tregnago D, et al. Factors Influencing Physical Activity in Cancer Patients During Oncological Treatments: A Qualitative Study. *Integr Cancer Ther.* 2020; 19: doi 10.1177/1534735420971365

9. 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。

10. 機器名・医薬品名の記載法

機器名は「一般名（会社名、製品名）」で表記する。統計ソフトは「製品名、バージョン番号、会社名」で表記する。医薬品は原則として一般名で記載する。

11. 倫理審査の記載法

投稿原稿では委員会名は記載せず、承認番号のみの記載とする。最終原稿では、委員会名、承認番号を明記する。

12. 謝辞

文中で謝辞を述べる際には、関係者同士が事前に確認し合い、了解を得ることを前提とし、本学会機関誌委員会はこれに関する一切の責務を負わないものとする。また、当該研究の実施にあたって研究費助成を受けた場合は、その資金名およびその番号を記載する。尚、投稿者の特定に繋がらないように投稿時には空欄とすること。

13. 規程の改廃

本規程の改廃は本学会機関誌委員会の決議による。その後速やかに本学会理事会に報告するものとする。

附則

1 本規程は、令和5年4月1日より施行する。